

(3) 田越しかんがいと一筆内みずすましほ場

ア 田越しかんがい

田越しかんがいは、ほ場で使った水を排水路に落水せず、隣の下ほ場に落とし、その水を使って下のほ場では代かき等の作業を行う。このため、水の節水ができるとともに濁水の流出が防止できる。上のほ場から順に作業する必要があり、集落内の合意が重要である。

なお、隣のほ場に水を落水するためには、ほ場間の落差は、10 cm 以上必要である。

イ 一筆みずすまし水田

ほ場の水尻部分に田植えをしない部分を設け、濁水が直接排水路に流出しないようにする。ほ場下に設置するため、トラクタなどの乗用の機械が利用できず、他の作物を栽培しにくい。また、雑草が多くなり、草刈り作業が多くなる。これも集落内のまとまった合意の元に進めることが重要である。

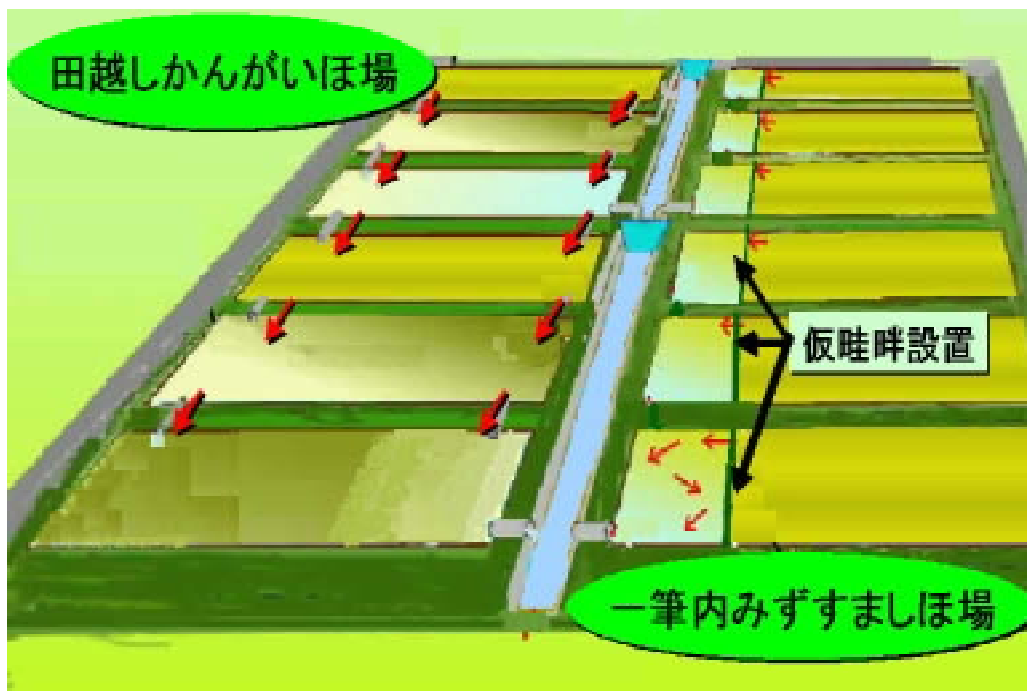


図 - 6 田越しかんがいと一筆内みずすましほ場